On the Accentual System of the Matsue Dialect

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Uwano, Zendo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00029590

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

日本海域研究所報告，第13号，109～136頁

「松江市方言のアクセント
―― 付属語を中心に ――」

上　野　善　道

On the Accentual System of the Matsue Dialect

Zendô UWANO

は　じ　め　に

松江市方言のアクセントについては，既に広戸惇・大原孝道『山陰地方のアクセント』（報光社，1953）の第3章「出雲アクセント」に記述があり，明治39年松江市生れの故大原氏自身のアクセントを中心に詳細な報告がなされている。またその音韻論的解釈も和田実「アクセント」（『方言学概説』武蔵野書院，1962）でなされており，その解釈に私も基本的に賛成である。

それにもかかわらずここに再度同市のアクセントを取り上げるのは，松江市出身の若いインフォーマントについてやや詳しい調査ができたこと，とりわけ従来の方言アクセントの調査報告に欠けがちであった付属語の連続した場合のアクセントの記述がそれなりに意味を持つと考えたこと，そして上記の広戸・大原氏の記述しているアクセントとこの話者のそれとの間に興味深い変化が起こっているので，その変化の原因と過程の解明のための基礎資料を提示する必要があると考えたことによる。調査そのものは，式保存の観点からの複合語のアクセント，動詞・形容詞の諸活用形のアクセントについても行なったが，本稿では名詞およびそれに付く付属語のアクセントに焦点を絞って述べることにする。

その後，この原稿の〆切直前に松江に行き，この話者の父親について長時間の，他に数名の話者について短時間の調査をすることができた。その結果を充分に分析する時間がないのが残念であるが，最後の語彙の部分でその結果の一部を資料として提示することにする。

1．話　　者

話者は今春金沢大学言語学科を卒業した馬場京子（マバキヨウコ）氏である。昭和33年生まれで18歳までずっと松江市東本町（ヒガシホンマチ）に住み，両親とも同市の出身である。なおこの調査は1980年度後期に金沢で行ない，1981年5月に松江で一部再確認をした。調査は多く広戸・大原前掲書に基づいて進め，奥田邦男『日本語方言アクセントの生成音韻論的研究』（文化評論出版，1975）の第2章も参照した。

2. 名詞のアクセント体系

2.1　まず名詞の基本的アクセントを見ていこう（表1を参照）。

表　1

			単独	ガ	ニ	コノ
1—0	柄	(気, …)	エ	エガ	エニ	コノエ
1—1—a	絵	(手, …)	エ	エガ	エニ	コノエ
1—1—a′	木	(火, …)				
2—0—a	鼻	(梅, …)	ハナ	ハナガ	ハナニ	コノハナ
2—0—b	灰	(棒, 勘, …)	ハイ	ハイガ	ハイニ	コノハイ
2—0—c	牛	(森, …)	ウシ	ウシガ	ウシニ	コノウシ
2—2—a	家	(山, …)	イエ	イエガ	イエニ	コノイエ
2—2—a′	足	(鍵, …)				
2—1	秋	(朝, …)	アキ	アキガ	アキニ	コノアキ
3—0—a	体	(煙, …)	カラダ	カラダガ	カラダニ	コノカラダ
3—0—b	太鼓	(氷, タンス, …)	タイコ	タイコガ	タイコニ	コノタイコ
3—0—c	始め	(三日, …)	ハジメ	ハジメガ	ハジメニ	コノハジメ
3—3—a	頭	(刀, …)	アタマ	アタマガ	アタマニ	コノアタマ
3—3—a′	鏡	(硯, …)				
3—3—b	縫目	(せいろ, 女, …)	トーフ	トーフガ	トーフニ	コノトーフ
3—3—b′	豆腐	(道具, …)				
3—3—c	鯨	(役場, …)	クジラ	クジラガ	クジラニ	コノクジラ
3—3—c′	座敷	(襷, …)				
3—2	命	(片手, …)	イノチ	イノチガ	イノチニ	コノイノチ
3—1	兜	(蛍, …)	カブト	カブトガ	カブトニ	コノカブト

ここで最初の数字はモーラ数，中央の数字は解釈における核の位置（0は無核），最後のa，b，cは具体的音調型を示す。(aとa′, bとb′等はn—nの最終モーラが広母音を含むか狭母音を含むかで分けたものである。この世代においてはその音調型に差がなく，この区別は事実上不要であるが，古い世代では区別があるので参考までに設けておく。また1—0，3—1等はa，b，…が不要である。）各型に属する語例は，あくまでアクセントの型の側から見たもので，各語がそのアクセントしか持たないという意味ではない。例えば「鯨」には3—0—c，「せいろ」には3—0—bの型のアクセントもある。

2.2　最初に表1のa，b，cから問題にしていく。a，b，cは，それぞれ異なる音調型に付けたレッテルであるが，これとそこに属する単語の音韻構造とは相補分布の関係をなしている。すなわち，今仮りに任意のモーラを「○」，撥音を「ン」，促音を「ッ」，長母音・二重母音の後半部（その第2モーラ）を「ー」・「イ」，狭母音（i，u）を含む音節を「狭」，広母音（a，e，o）を含む音節を「広」，無声化を下付きの小丸「。」で代表させることに約束すると，

b —— ○ー(…)，○イ(…)，○ン(…)

c ―― ○狭(広…)，○狭(狭…)，○ッ○(…)

a ―― b，c 以外の場合

という関係である。この適用範囲は，(連体構造を除き) 文節を超えないことを原則とする。

従って，例えば「煙」などは，第2音節が狭いが第3音節も狭く，かつムの母音も無声化しないのでcにはならず，aの「体」と同じ音調型をとる。

この関係は助詞がついても原則的に同じで，「鼻」と「牛」は単独では同じ，広母音を含む助詞が続くと狭母音を第2音節に持つ「牛」はウシガとなってハナガとの間に差が現われるが，狭母音を含む助詞が続くとウシニとなってハナニと同じになる。(もっともこの点は，本稿を書くにあたって再確認したところ，ウシニともウシニとも言えるという返事であった。ウシニの発音――ウシガ等への類推によるものか？――は，従属型の助詞とはいえやはり付属語であって名詞との間に何らかの――しかし独立型のそれとは明らかに異なる――切れ目があり，完全な一単語の場合とは少し異なる点があるということになろう。因みに金沢市や能登の諸方言にも類似した――といっても更に子音の有声無声も絡むが――母音の広狭と音調型との制限関係があるが，そこでは私の知る限り，ニは他のガなどと全く同じ行動をとる。)

また，a，b，cは，コノが前接した例でも分かるように，前に来る単語と1句をなすとその差はなくなってしまう。このコノはソノ，アノ，ドノのみならず用言の連体形をも含む無核の単語の代表である。前に有核語が来るとa，b，cともすべて低くなるが，やはり差がなくなってしまうことに変わりはない。

次にこれらに自立語を続けて1句としても，a，b，cの関係は言い切り時と変わりがない。

鼻	(a) ハナミル (見)，	ハナガアル (有)，	ハナニツケル (付)
灰	(b) ハイミル	ハイガアル	ハイニツケル
牛	(c) ウシミル	ウシガアル	ウシニツケル
梅	(a) ウメカウ (買：カウ)	ウメオカウ	
棒	(b) ボーカウ	ボーオカウ	
森	(c) モリカウ (×モリカウ)	モリオカウ	

以上の考察により，a，b，cは同一のものの現われであると解釈することができる。そしてまたその分布状態は音声学的に見ても充分に納得のいくものである。

今まで3千語ほどを調べた範囲内では，例外は「三つ，四つ，六つ，八つ」の4例にすぎない。これらはミッツとミッツの両方の発音があり，それぞれに核のあるもの (ミッツガとミッツガ) とないもの (ミッツガとミッツガ) の計4通りの発音がある。一方で「三日，切符」等は，ミッカガ，キップガだけで×ミッカガ，×キップガとは言わないという。ただし，コノがつくといずれもコノミッツガ(かコノミッツガ)，コノミッカガ，コノキップガで同じになる。この例外はいずれも数詞でいわゆる第2類の単語であるが，今の所これらは説明不能の例外とせざるを得ない。(歴史的にはかつてミーツ，ヨーツとでも言ったのであろうか？) しかし，上昇位置に関する例外があっても，次に述べるように下降をより本質的特徴と見る以上，解釈を根本的に組変える必要はないであろうと

考えている。(これらの数詞における例外については，大原孝道「アクセントつき方言文例（二）」『方言』7—3（1937），p. 40 に既に指摘があることからみて，調査ミスや個人的現象ではありえない。)

2.3 次に核の問題に入るが，表1全体を見渡してみると，この方言のアクセント核は「下げ核」/ ˥ /である。類の統合の仕方は北奥方言によく似ていながらも，核の性質は，北奥の，そこから昇ろうとする「昇り核」/ ˩˥ /ではなく，次を下げようとする「下げ核」であることは注意してよいと考える。

n—0 と n—n(1—0 と 1—1, 2—0 と 2—2 等)の対立は，助詞を介さずに自立語を続けて1句に発音してもはっきり出てくる。

森 (0) モ$\overline{\text{リカウ}}$（買），モ$\overline{\text{リミ}}$ル（見）

家 (2) イ$\overline{\text{エ}}$カウ　　，イ$\overset{(\text{ー})}{\overline{\text{エミ}}}$ル

因みに n—0 と n—n は，単独の発音の表記は簡略的に同じにしておいたが，実は，対にすると n—n の核のあるモーラがより高く強くなってはっきり区別が出る。話し手の意識としては単独でも区別があるという。

2.4 結論として，表1は次の表2のように解釈される（同一のものはまとめて示す)。

表 2

1—0	柄	(気，…)	○	○ガ	○ニ	コノ ○
1—1	絵	(木，…)	○˥	○˥ガ	○˥ニ	コノ ○˥
2—0	鼻	(灰，…)	○○	○○ガ	○○ニ	コノ ○○
2—2	家	(足，…)	○○˥	○○˥ガ	○○˥ニ	コノ ○○˥
2—1	秋	(朝，…)	○˥○	○˥○ガ	○˥○ニ	コノ ○˥○
3—0	体	(太鼓，…)	○○○	○○○ガ	○○○ニ	コノ ○○○
3—3	頭	(鏡，…)	○○○˥	○○○˥ガ	○○○˥ニ	コノ ○○○˥
3—2	命	(片手，…)	○○˥○	○○˥○ガ	○○˥○ニ	コノ ○○˥○
3—1	兜	(蛍，…)	○˥○○	○˥○○ガ	○˥○○ニ	コノ ○˥○○

/　/に入れるのは省略する。

表 3

4—0—a	鶏	(唇，…)	/○○○○/
4—0—b	大	根（包丁，親類，…）	
4—0—c	軽	業（学校，…）	
4—4—a	霜	焼（嘘付，…）	/○○○○˥/
4—4—b	一(ツイ)	日(タチ)（紋付，…）	
4—4—c	書	方（指先，…）	
4—3—a	骨	組（悪口，…）	/○○○˥○/
4—3—b	食(クイ)	物(モノ)（先生，提灯，…）	
4—3—c	箸	箱（欲張，…）	
4—2	朝	顔（紫，…）	/○○˥○○/
4—1	故	郷（挨拶，…）	/○˥○○○/

5—0—a	笑　　物（面白味，…）	/○○○○○/
5—0—b	間　　柄（顕微鏡，…）	
5—0—c	水　溜　り（有難味，…）	
5—5—a	金　物　屋（鼠色，…）	/○○○○○˥/
5—5—b	外　国　語（専門家，…）	
5—5—c	メリケン粉（破れ傘，…）	
5—4—a	生　　卵（針仕事，…）	/○○○○˥○/
5—4—b	大　　昔（…）	
5—4—c	脂　　汗（油紙，…）	
5—3—a	霜　　柱（影法師，…）	/○○○˥○○/
5—3—b	盆　踊　り（洗面器，…）	
5—3—c	甲　　虫（海坊主，…）	
5—2	身　拵　え	/○○˥○○○/
5—1	台　　所	/○˥○○○○/
6—0—a	幸　せ　者（働きかけ，…）	/○○○○○○/
6—0—b	安　全　灯（反対側，…）	
6—0—c	水　疱　瘡（氏神様，…）	
6—6—a	紫　　色（堀抜井戸，…）	/○○○○○○˥/
6—6—b	考　え　物（…）	
6—6—c	臆　病　者（…）	
6—5—a	金　切　声（笑話，…）	/○○○○○˥○/
6—5—b	あんころ餅（…）	
6—5—c	後　　姿（…）	
6—4—a	枝　垂　柳（草刈鎌，…）	/○○○○˥○○/
6—4—b	大工道具（雑木林，…）	
6—4—c	柱　時　計（破れ障子，…）	
6—3—a	藁　人　形（さや豌豆，…）	/○○○˥○○○/
6—3—b	綿　織　物（…）	
6—3—c	水　鉄　砲（鬼征伐，…）	
6—2	上がり下がり（…）	/○○˥○○○○/
6—1	お稲荷さん（…）	/○˥○○○○○/

この $P_n=n+1$ の関係は4モーラ語以上でも同様に認められる。表3にそれを示す(a′, b′ 等は略す)。ただし長い単語ほど語頭に近い所に核のある例が見つかりにくい点ではこの方言も例外ではなく，6—1, 6—2 はどうしても特殊な語構造のものを掲げざるを得なかった。音調型の数は $I_n=3(n-1)+2$ となる。

3. 付属語のアクセント

ここにいう付属語は，必ずしも厳密な意味ではなく，いわゆる助詞と助動詞のうち分離性の比較的強いものを中心とし，一部接尾辞相当のものも取り扱うことにする。

3.1 まず表1は1モーラ付属語であるが，その/ガ/と同類に入るものは，/ワ，オ，モ，デ，ト（並列，引用），ヤ（列挙），カ（選択），ダ（指定）/で，他方言でよく特殊な行動をとる/ノ/もここ

表 4

1−0	柄	エカラ	エサエ	エニダ	エマデ〜エマデ
1−1	絵	エカラ	エサエ	エニダ	エマデ
2−0−a	鼻	ハナカラ	ハナサエ	ハナニダ	ハナマデ〜ハナマデ
2−0−b	灰	ハイカラ	ハイサエ	ハイニダ	ハイマデ〜ハイマデ
2−0−c	牛	ウシカラ	ウシサエ	ウシニダ	ウシマデ〜ウシマデ
2−2	家	イエカラ	イエサエ	イエニダ	イエマデ
2−1	秋	アキカラ	アキサエ	アキニダ	アキマデ

1−0	柄	エカラワ〜エカラワ	エダケワ	エトダケ〜エトダケ
1−1	絵	エカラワ	エダケワ	エトダケ〜エトダケ
2−0−a	鼻	ハナカラワ〜ハナカラワ	ハナダケワ	ハナトダケ〜ハナトダケ
2−0−b	灰	ハイカラワ〜ハイカラワ	ハイダケワ	ハイトダケ〜ハイトダケ
2−0−c	牛	ウシカラワ〜ウシカラワ	ウシダケワ	ウシトダケ〜ウシトダケ
2−2	家	イエカラワ	イエダケワ	イエトダケ〜イエトダケ
2−1	秋	アキカラワ	アキダケワ	アキトダケ〜アキトダケ

に属す（なお，エやバは用いないという）。一方の/ニ/の類は，今の所これ1語である。

次に2モーラ以上の付属語および付属語連続を表4に示す。

/カラ/と同じく無核の付属語には，他に/ナト/（この方言の助詞で「お茶漬でも食べるか」の「デモ」に相当する。大原前掲論文 p. 35 によれば，ナリトがその語源という）がある。

/サ˥エ/のように核をもつものは，他に/デ˥ス，ノ˥ワ，ノ˥モ，ノ˥ニ，ノ˥ダ，デ˥モ/がある。/ノ˥ワ/以下は，付属語どうしの結合においては，前の付属語が無核の場合，その末尾に核が挿入されるという，東京方言などにおいても見られる規則を示しているものとして注目される。因みに最後の/デ˥モ/は「お茶漬でも良い」の「デモ」であるが，先の/ナト/を共通語に置き換えた場合の「デモ」は/ナト/と同じく無核の/デモ/で，ここの/デ˥モ/とは区別される。

/ニ˥ダ/も同じ結合によるものであるが，ニが狭母音のため2—0—cに違いが生じ，ウシニダとなる。/ニ˥ワ，ニ˥モ/もこれと同類である。ただし「ニダ，ニワ，ニモ」には，表4には示さなかったが/ニダ，ニワ，ニモ/と核のない形もあるから，これを表記上まとめて示す時には/ニ˥ダ〜ニダ/の代わりに/ニ(˥)ダ，ニ(˥)ワ，ニ(˥)モ/と記すことにする。（なおこの場合，先にニの所でも記したように，再確認をした所，/ニダ/と核のない場合に限ってウシニダの他にウシニダでもいいということであった。/ニ˥ダ/等では最初の答えと同じくウシニダだけが可であった。）［**補注**］

「マデ」もその併用の例で，/カラ/と同じ/マデ/の他に，/サ˥エ/と同じ/マ˥デ/も存在する。（なお/マ˥デ/の場合も，有核名詞につくとその核が名詞の核に抑圧されて消えるか弱まるという一般規則により/マデ/と区別がつきにくくなるので表4には簡略化してまとめて示したが，/マ˥デ/にプロミネンスを置くとその核が明瞭に出てくる。）この/マ(˥)デ/と同類には，/カ(˥)ト，モ(˥)ダ，ト(˥)ダ，ト(˥)ワ，ト(˥)モ，デ(˥)ダ，デ(˥)ワ，ダ(˥)ケ，ナ(˥)リ，ヤ(˥)ラ，ナ(˥)ド，ナ(˥)ラ，ヨ(˥)リ/等がある。

もっとも同じ/○(˥)○/でも/○˥○/と/○○/が全く対等に出るとは限らないらしく，/ダ(˥)ケ/は/ダ

ケ/の方が優勢であり，/ト(ㄱ)モ，ヤ(ㄱ)ラ，ヨ(ㄱ)リ/などは/○ㄱ○/の方がまず最初に出てくるようである。また/デ(ㄱ)ワ/も「～デワナイ」と続く時は/デㄱワ/でないと落ち着かないという。先の/ニ(ㄱ)ダ/も/ニㄱダ/の方が多いらしい。

そもそもここに/○(ㄱ)○/と記したものは，単に表記上/○ㄱ○/と/○○/をまとめて示したものにすぎず，/○(ㄱ)○/型という特定の型の存在を意味するものではないから，本来，各付属語ごとに/○ㄱ○/と/○○/との干渉・牽引・混同の問題としてその要因，度合等を見ていくべきものであろう。

広戸・大原氏の前掲書 p. 69 の記述を読むと，明治生れの世代では「カラ，サエ，マデ，ナラ，ニワ，ニモ，トワ，トモ，デモ」等は核がないと解釈される。またこのことは松江方言の複合語アクセント規則や東北方言の例からも裏付けが得られる。しかるに新しいアクセントの傾向では上例がいずれも/○ㄱ○/となるという。「新しいアクセント」とは，同書第三篇の p. 2 から昭和 10 年生まれの話者のものと推定されるが，本稿の話者の馬場京子氏（昭和 33 年生まれ）もその傾向を引きついでいるわけである（「カラ」のみ例外であるが，これについては後述）。この，核を持つようになる変化は，先に述べた付属語結合アクセント規則の反映およびその類推拡張によるものであろうが，この規則が何故に，またどのような過程を経て導入されたのかは今後の課題の 1 つである。古い世代では n—n の a′，b′，c′がカガミトモ（鏡），トーフカラ（豆腐），アシデワ（足）となる事実，古い世代から/○ㄱ○/のまま伝承されてきた付属語（の有無），更に付属語を強調した場合に核を主張する傾向——この傾向は諸方言で見られる——等を考え合わせる必要があろう。

上で問題となった「カラ」は，それだけが名詞に付いた場合は/カㄱラ/とは言わないというが，これに更に付属語が付き，しかも「カラ」を強調して言う時には/カㄱラワ，カㄱラモ，カㄱラダ/も可だという。（仮にこの強調を ′ で示すと，表記上 3 つの型をまとめれば/カ(′ㄱ)ラ(ㄱ)モ/となろう。）ここから単独の/カラ/も/カㄱラ/に変化する道が開けてくる。

さて再び付属語どうしの結合に話は戻るが，付属語に核がある時は，その核と，結合規則により導入される核とが併存し競合しあい，時には話者の判断がゆれることがある。「カラデモ，カラマデ，カラデサエモ」等はこの意味で面白い。前二者は/カラ＋デㄱモ→カラデㄱモ/（この場合「マデ」で該当するのは/マㄱデ/のみ）の他に，/カラ＋デㄱモ→カラㄱデモ/，/カㄱラ＋デㄱモ→カㄱラデモ/（これらは/マデ/も可）の三通りが可能となる。後者は/カラ＋デ＋サㄱエ＋モ→カラデサㄱエモ/の他に，/カラ＋デ＋サㄱエ＋モ→カラㄱデ＋サㄱエモ→カラㄱデサエモ/，「カラ」を強調して言う場合の/カㄱラデサエモ/があり，更に，2 度目の調査では否とされたが，最初の時は/カラ＋デ＋サㄱエ＋モ→カラ＋デㄱサエ＋モ→カラデㄱサエモ/も言えそうだとの答えが返ってきた。これらは規則の衝突とその選択に関する迷いを反映しているものである。「マデワ，マデモ，マデダ」も/マㄱデワ，マㄱデモ，マㄱデダ/の他に/マデㄱワ，マデㄱモ，マデㄱダ/の形があるが，この場合は，「マデ」に 2 種類のアクセントがあるので，それぞれ/マㄱデ＋ワ→マㄱデワ/，/マデ＋ワ→マデㄱワ/と見ることも可能である。（なお/マデダ/等と全体が無核の型の可否については，最初の調査では可であったが，間をおいた 2 度目の質問には否という返事が得られた。）

「サエモ，ヨリカ」は/サㄱエモ，ヨㄱリカ/に固定しているといえるが，それはそもそも「サエ」は/サㄱエ/のみ，「ヨリ」は/ヨㄱリ/が主であることに基づくが，更に次のことも関与していると考え

られる。すなわち，/サエ┐モ/の形は音韻構造上不可能ではない——最初の調査では/サエ┐モ/も，付く単語によっては言えそうな気がすると答えている——ものの不安定なこと，「ヨリカ」の方は，/ヨリ┐カ/が音韻構造上不安定な他に，より普通に用いる方言形が/ヨ┐ーカ/であり，×/ヨー┐カ/の形は不可能であること，そして/ヨ┐リカ/はその/ヨ┐ーカ/を共通語形に置き換えたものであることである。/サ┐エモ/と同じ/○┐○○/型には/ダ┐ッタ/（指定の過去）がある。

なお「ダソーダ」は/ダソ┐ーダ/に固定していて×/ダ┐ソーダ/とは言わないという。これは「ソーダ」の独立性が強く，アクセントの面からも次の独立型に入れるべきもので，ダ＋ソーダの付属語どうしの結合ではなく，名詞＋ダが一まとまりになり，その後にソーダが付いたものだから×/ダ┐ソーダ/にならずにいるものであろう。

「ダケ」は/ダケ┐ワ，ダケ┐モ，ダケ┐ト，ダケ┐カラ/等となる（/ダ┐ケワ/等も聞くことがあるという）が，「ダケ」の意味自体が限定的なためであろう，有核名詞に付いても～ダケワ等と核が実現する傾向がある。（なお「ダケ」には×イエダケのように無核化させる型は存在しない。）

後部付属語として用いられる「ダケ」は他と異なる行動をとる。すなわち，「トダケ，カラダケ」と続いても×/ト┐ダケ，カラ┐ダケ/になることはない。確かにダケにプロミネンスを置くと，表4ダケの右側の例のようにハナトダケとなってトとダの間に段差が生ずるが，この場合は/ト┐ダケ/とは次の点で異なる。/┐/がある場合，そこが高いのみならず強く，その次を低くするのみならず同時に弱くもする。それに対して上記の場合はトが強いことはなく，ダの方が逆に強い（東京方言の「麦畑」/ムギバ┐タケ/にプロミネンスをおいたムギバタケとは異なる）。すなわち，この場合トが次を下げたのではなく，高く終るトとは無関係に，そこで句切りをおいてダケをはっきり発音したためにダが低く始まり，結果としてトとダの間に段差が生じたものである。これは仮に表記すれば/ト｜ダケ/である。/トダケ/と合わせて示せば/ト(｜)ダケ/となる。同様に/カラ(｜)ダケ/である。因みに，これに更に付属語が続くと/カラ（｜）ダケ┐ワ/等となる。ダケが遊離しやすいのは，先に述べたように意味上の要因に基づくものであろう。（「段差」「句切り」の用語は川上蓁氏による。）

以上，この3.1で述べたのは，（後部付属語としての「ダケ」は特殊であるが）すべて「従属型」といえるものである。/マ┐デ，サ┐エ/等は東京方言等では「独立型」に属するが，この方言ではウシマデ，ウシサエであって×ウシマデ，×ウシサエではないから，次の3.2に述べる所に照らしてみて独立型とはしにくい。（先に2度触れた再確認調査で，ウシニ～ウシニ，ウシニダ～ウシニダ，更にウシマデダ～ウシマデダ——但しウシマデかウシマデのみ——が出てきたので，当初考えていたよりは複雑になってきたが，3.1に述べた取り扱いは基本的に変更の必要はないであろうと考える。/マデ┐ダ/の場合，別に独立型もあるとすれば済む。）

なお従属型である印を何も付けずに来たが，次の独立型の無印と区別するためには，例えば前に＋をつけて/＋ガ//＋マ┐デ/等ともできよう。

3.2　従属型以外の型をもつものに，「バカリ，ラシイ，グライ」，および特殊なものとして「シカ」がある。表5を参照。

「バカリ」は改まった言い方で，普通は「バッカリ」更には「バッカ」というが，いずれにしろアクセントには共通性がある。核の有無と位置は/バ┐カリ//バッカ┐リ//バッカ/と異なるものの，

表 5

1−0	柄	エバカリ〜エバカリ	エバッカリ〜エバッカリ
1−1	絵	エバカリ	エバッカリ
2−0−a	鼻	ハナバカリ	ハナバッカリ
2−0−b	灰	ハイバカリ	ハイバッカリ
2−0−c	牛	ウシバカリ〜ウシバカリ	ウシバッカリ〜ウシバッカリ
2−2	家	イエバカリ	イエバッカリ
2−1	秋	アキバカリ	アキバッカリ

1−0	柄	エバッカ〜エバッカ	エラシイ	エラシイ
1−1	絵	エバッカ	エラシイ	エラシイ
2−0−a	鼻	ハナバッカ	ハナラシイ	ハナラシイ
2−0−b	灰	ハイバッカ	ハイラシイ	ハイラシイ
2−0−c	牛	ウシバッカ〜ウシバッカ	ウシラシイ〜ウシラシイ	ウシラシイ
2−2	家	イエバッカ	イエラシイ	イエラシイ
2−1	秋	アキバッカ	アキラシイ	アキラシイ

1−0	柄	エグライ	エグライ	エグライ
1−1	絵	エグライ	エグライ	エグライ
2−0−a	鼻	ハナグライ	ハナグライ	ハナグライ
2−0−b	灰	ハイグライ	ハイグライ	ハイグライ
2−0−c	牛	ウシグライ	ウシグライ	ウシグライ
2−2	家	イエグライ	イエグライ	イエグライ
2−1	秋	アキグライ	アキグライ	アキグライ

1−0	柄	エグライ	エグライ	エシカ
1−1	絵	エグライ	エグライ	エシカ
2−0−a	鼻	ハナグライ	ハナグライ	ハナシカ
2−0−b	灰	ハイグライ	ハイグライ	ハイシカ
2−0−c	牛	ウシグライ	ウシグライ	ウシシカ
2−2	家	イエグライ	イエグライ	イエシカ
2−1	秋	アキグライ	アキグライ	アキシカ

いずれも名詞単独の形をそのまま生かして続くか（エバカリ（柄），ウシバカリ（牛）等），「ガ」等と同様に全体として一単位になるか（エバカリ，ウシバカリ等）の両形がある点で共通である。このうちの前者は，エアル(有)，ウシアル等の自立語が続く時と全く同じであるから，その/バ˥カリ，バッカ˥リ，バッカ/はいずれもアクセント上独立する（「独立型」）。それに対して後者は，「ガ」等の一般助詞と等しく「従属型」である。両者の差は1—0と2—0—cにおいて現われる。3モーラ語以上では差が出てこない。独立型と従属型を仮に表記上合わせれば/(＋)バッカ˥リ/等となろう。

次に「ラシイ」に移る。これには従属型の/＋ラシ˥イ/と共に，別に，付く名詞と一単位になる点では同じであるが，前の名詞に無関係にすべてを自分の型に引きつけてしまう点で（付属語の側から見て）「支配型」と呼ぶべき/—ラシ˥イ/がある。（これは既に付属語ではなく，派生接辞と認定さ

れるが，ここでは一括して扱うことにする。）名詞と一語になった/—ラシ˥イ/には，その全体でa，b，cの分布に基づく上昇規則が適用になる。従って(a)ハナラシイ(鼻，花)，(b)ハイラシイ(灰)，(c) ウシラシイ（牛)，アシラシイ（足)，アキラシイ（秋）となる。この支配型の/—ラシ˥イ/は同時に《いかにもそれに相応しい条件を備えている様子だ》の意味の形容詞をも作る（東京方言のオトコラシイ《男のようだ》とオトコラシイ《女々しくなく，いかにも男といえる》を参照)。なお「バッカリ」等にも支配型がないかを聞いた所，頭高型以外についてなら/—バッカ˥リ/（イエバッカリ等）を耳にすることはあるが，自分では使わないとの答えであった。

問題は他にウシラシイも存在することで，これから見て独立型で，1—0にもエラシイがあるだろうと予想したが，肯定的な答えは得られなかった（これを聞けばむしろ「絵」の方にとれるという)。今の所，仮に独立型の特殊なものとしておくしかない。

次に「グライ」。まず表の最初は核のない/＋グライ/である。この場合，「グライ」のグが「狭」のため2—0—cではいずれにしろウシグライとなり独立型が従属型かは判定不能であるが，1—0のエグライから従属型と認定される。(但し，この点も再調査ではウシグライも可との答えが得られた。先のウシニと同じく，今この話者は，2—0—cに「狭」ではじまる付属語がつく場合，上昇位置に関して「広」の付属語のそれへの類推的合一化の過渡期に当たり，動揺の渦中にあるのかもしれないが，境界（boundary）の問題もからめて，なお精査を要する。）

「グライ」には他に/—グ˥ライ/と/—グラ˥イ/の2つの支配型がある。支配型では当然「グライ」のついた全体に分布に基づく上昇規則が適用されるので，3—1のカブト（兜）もカブトグライまたはカブトグライとなる。

更にもう一つ，すべて～グライないし～グライとしてしまう点では支配型の一つとも言えるが，上昇位置は前に来る名詞の単独の場合のそれを生かすという特別な型がある。1モーラ語につくと，「柄」「絵」共にエグライないしエグライ，n≧2のn−1につくとアキグライ(秋)，カブトグライ(兜)等と実現する。その他の場合は普通の支配型のそれと変わりがない。

最後は「シカ」であるが，これは東京方言等と同じく特異である。無核の名詞にもいわば"核"をもたせる働きがあるため，「柄」(0)と「絵」(1)，「鼻」(0)と「花」(2)等が区別なくエシカ，ハナシカとなってしまう。一見支配型的である（/—˥シカ/）が，×/アキ˥シカ/でないのでこれは当てはまらない。/˥シカ/という他にない型を立てて独立型ないし従属型の特殊なものとしても扱えるが，ハイシカ（灰）であって，二重母音を含む音節に核のある形のハイシカでない所から，/˥/とは見ないで，低起性をもつ/＋⌊シカ/として従属型の特殊なものとする方が素直であろう（和田実「辞のアクセント」『国語研究』第29号，1969，p.17なども（低）の〈従属する辞〉とする)。

4. アクセント語例

最後に金田一春彦『国語アクセントの史的研究——原理と方法——』（塙書房，1974）に載ったアクセント語彙を中心に，これまで述べてきた馬場京子氏と，その父親の嘉利(ヨシトシ)氏の二人のアクセントを資料として提出しておく。

4.1 嘉利氏は大正12年1月15日生まれで，16歳まで松江で育ち，その後京都に4年，軍隊等

で約4年の外住歴があるのみで，その後もずっと松江に住み，両親，配偶者ともにやはり松江出身である。

嘉利氏のアクセント体系は広戸・大原氏記述のそれに近いので，問題点のみを略記する。

まず第1に，表1でaとa′，bとb′，cとc′とした対，すなわち京子氏の体系で語末に核のある型が，その後に付属語が続く場合，その語末の母音の広狭によって異なる音調型をとる。

2—2—a（家）イエ　イエアー（有）　イエガアー

2—2—a′（足）アシ　アシアー　　アシガアー

第2に，語頭以外のリ・ルがほとんど規則的に落ち，代わりにその直前の音節の母音が長くなるという変化が，元のアクセントは変えないままで生じている。

トリガ＞トーガ（鳥が，2—0），アリガタミ＞アーガタミ（有難み，5—5）

レも助詞付きの指示詞を中心に弱化し長母音化している。

コレガ＞コ$_{ル}$ガ＞コーガ（これが，2—0）

更に語頭以外のミ・ム（・ニ・ヌ）＞ンの変化もかなり生じている。やはりアクセントは元のを保つ。

カミバコ＞カンバコ（紙箱，4—0），ナヌカ＞ナンカ（七日，3—3）

そのため，これらの変化が第2音節で生ずると，音韻構造上はb類に属しそうでありながら，元来の長母音や撥音を含む語とは異なる音調型cになって，少なくとも表層面に徹する限り，対立をなす様相を呈している（広戸・大原前掲書 p. 72，大原前掲論文 pp. 40—41 参照）。

また，第1点に関係するが，「湯」のようにa′になりそうでいて決してならない例もある（広戸・大原前掲書 p. 60）。

a，b，cの分布に関しては，やはり「三つ，四つ，六つ，八つ」のミッツ（ガ）等が存在している（2.2の末尾参照。但し，この話者はこの型しか用いないらしい）。

これらの点をどう解釈するかが大きな問題で，これらについては嘉利氏のデータに基づき改めてより詳しく取り上げなければならないが，今の私は，これらをすべて同一平面において分析するのはあまりに複雑になりすぎるのみならず，より本質的な点として，音韻体系の実態，即ちその立体的構造や歴史の流れの中にある共時態のふくらみを見失うことになるので，むしろ次のように分けて取り扱うべきだと考えている。

第1点については，aとa′，bとb′等はここでも相補分布をなすので，和田氏と同様，/イエ┐//アシ┐/と同一のものと解釈する。これについては嘉利氏における実現の仕方に関して色々と注釈を要する点があるけれども，この範囲に関する限りは何ら異論がない。

第2点は生成音韻論の手法を用いて，それぞれ｜トリ＋ガ，コレ＋ガ，アリガタミ，カミバコ｜を基底形に立てておき，後は規則で導き出す方がいいと考える。この部分だけ別の方法を用いるとの批判もあろうが，この話者にとってはトリガとトーガ，カミバコとカンバコ等が結びついて場面に応じて使い分けられている状態であり，恐らく多くの話者にとってもその頭の中でこれらは併用形の関係として結びつけられているだろうと思われるからである。この｜｜は同時に//でもある。

第3点の「湯」については，理由は未詳であるが，とにかく新しい世代でm′がmに合流してしまうその尖兵なのであろう。古く例えばヨとかと言わなかったかと聞いてみたが，イ（やはり狭母音！）

とは言ったということであった。(あるいは更に古くはエと発音したのであろうか？)

このm′がmに合流する変化は，京子氏においては「湯」に限らず，a′とa，b′とb，c′とcのすべてにおいて体系的に起こり，この区別が失われている（わずかに不定詞の「いつ」と「何」に併用で残存するのみで，他のアシガ（足）型の存在には嘉利氏の調査に立ち合うまでは気ずいてすらいなかった)。ちょうどm′とmとが分かれる前の元のmの状態に戻ったことになるわけである。生成音韻論では恐らく，'rule loss' の好例として記述されることになるであろうが，先程のトーガ（鳥が）等の場合とは違って，歴史言語学における'rule loss' の存在そのものについて私は大きな疑問を抱いているので，あるいはそれを一つの記述の手段と言うのならばそれはともかく，今度はそれに相当する実態はどうなのかという問題になるので，結局，この変化が何故に，またどのようにして起こったのかを明らかにすることが次の大きな課題となってくる。(これについては不充分ながら若干の調査を試みたので，次回に合わせて述べる予定。)

4.2　語例資料を表6として掲げる。表6の記号について説明する。嘉利氏を仮に大正の代表としてTで，京子氏を同じく昭和のSで示した。アクセントは，モーラ数は自明ゆえ略し，2—0—cは0cと示した。mとm′は区別したが，1a，2aは1，2と，1a′，2a′は1′，2′と略した。

その単語そのものをあまり使わないというものには前に（希）をつけた（そして一部，それに代わる普通の言い方を（　）に入れて示した)。これと「0,1(希)」の（希）とは別で，後者はその単語が0のアクセントの他に，希に1のアクセントも持つという意味である。その他，（　)は発音などの諸注記に，《　》は意味の注記に用いた。ただし，中舌音については特に表記しなかった。

京子氏はかなり共通語化が進んでおり，家で話すアクセントと，外に出て友達と話す時や改まった場面でのアクセントが異なることがある(特に2モーラ名詞の4・5類や3モーラ名詞の5類等)。その場合，なるべく家の中でのくだけた言い方を中心にし，上記の使い分けがあるものには，改まった方を（　）に入れて「2(1)」のように記した（ただし，この種の場合によくあるように，もう一度組織的にこの観点で聞き直せば，もっと（　）が増えるかもしれない)。

併用形は数字を二つ並べた。なるべく，普通の言い方，在来の言い方を左に書くようにしたが，左右特に差のないものもある。

また名詞の所には3—2についてはa，bの区別なしと書いたが，動詞・形容詞には出てくる。この表には名詞とのつり合い上，aの方は単に2とし，希に出てくるbの方のみを2bとした。京子氏も嘉利氏と同様，動詞ではカー（買う，カートキ)，(オキー（起きる，オキートキ）など，少なくとも一に終る形は持っているが，動詞語彙全体に渡る確認はしていないので表には出さなかった。

4.3　若干の紙幅がありそうなので，続いて表7に，京子氏からしか聞いていないが，以前奈良田方言について報告したことのある語彙を中心に3モーラ語から6モーラ語までのものを適宜示すことにする。何らかの参考になればと思う。

［**補註**］　その後電話で確かめた所，「水にだ」(「水」は「牛」と同じ音調型。シは無声化しやすいので「水」の方が観察しやすい）のミズニダに平行する「柄にだ」はエニダで，表4に示したエニダは今回は否定された。これに従えばこの/ニ˥ダ/は独立型となる。

表 6

◎名詞

○Ⅰ－1類	S	T
柄	0	0
緒	0	0
蚊	0	0
香	NR	0
子	0	0
瀬	(希)1か	(希)0
血	0	0
戸	0	0
帆	1	0

○Ⅰ－2類		
鵜	(希)1	0
名	0	0
葉	0	0
日	0	0(フとも)
藻	0	0
矢	0	0

○Ⅰ－3類		
絵	1	1
尾	(希)1,0 (シッポ3c)	1
木	1	1′,1
粉	1	1
酢	1	1′,1
田	1	1
手	1	1
砥(ト)	NR	1
菜	1	1
荷	(希)0,1	1,1′,0
根	1	1
野	1	1
火	1	1′(フとも)
屁	1	1
穂	1	1
箕(ミ)	NR	0
目	1	1
芽	1	1
湯	1	1(イとも) (1′にあらず)
夜	1	1
輪	1	1

○Ⅰ－x類		
毛	0	0
巣	1	0
背(身長)	1(セ) 1,0b(セー)	0b(シェー)
歯	1	1
刃	1	1
世	1	0

○Ⅰ－その他		
胃	0	0
気	0	0
痔	0	0
図	0	0
実	0	0
身	0	0
苦	1	1,1′
字	1	1,1′

○Ⅱ－1類		
灰汁(アク)	0c	0c
姉	0a	0a
飴	0a	0a
蟻	1	1
烏賊(イカ)	0a	0a
魚(ウオ)	0a	0a
牛	0c	0c(オシ)
梅	0a	0a
枝	0a	0a
海老(エビ)	0c	0c
甥(オイ)	0b	0b
丘	0a	0a
甲斐(カイ)	0b	0b
顔	0a	0a
柿	0c	0c
籠(カゴ)	0a	0a
瘡(カサ)	2	2
風	0a	0a
仮名	0a	0a
蟹	0c	0c
金(カネ)	0a	0a
鐘	0a	0a
株	0c	0c
壁	0a	0a
釜	0a	0a
蚊帳(カヤ)	0a	0a
粥(カユ)	(希)0c (オカユ0a)	(希)0b (オカエサン0a)
雉子(キジ)	0c	0c
疵(キズ)	0c	0c
君(キミ)	0c	0c
桐	0c	0c
霧	0c	0c
釘	0c	0c
口	0c	0c
国	2,0c	0c
頸(クビ)	0c	0c
暮	0a	0a
鍬(クワ)	2	2
腰	0c	0c
籠手(コテ)	(希)0a	0a
駒(将棋の)	2	2
胡麻	0a	0a
薦(コモ)	(希)2	0a
此(コレ)	0a	0a (コーガ0c)
先	0c	0c
鷺(サギ)	1	1
酒	0a	0a
笹	0a	0a
里	0a	0a
鯖(サバ)	0a	0a
鮫(サメ)	0a	0a
皿	0a	0a
品	0a	0a
芝	2	2
城	0a	0a
皺(シワ)	0a	0a
末(スエ)	0a	0b
鋤(スキ)	0c	0c
杉	0c	0c
鈴	1か2か	0c
裾(スソ)	0a	0a
底	0a	0a
袖	0a	0a
其(ソレ)	0a	0a (ソーガ0c)
鷹	0a	0a
滝	0c	0c
竹	0a	0a
竜(タツ)	2	0c
蓼(タデ)	0a	0a
棚	0a	0a
誰	0a	0a (ダーガ0c)

	S	T
塵	0c	0c
筒	0c	2′(0cもか)
壺	0a	0a
爪	0a	0a
艶	0a	0a
釣	0c	0c (ツーガ0c)
床(トコ)	0a	0a
何処	2	2
友	1	1
虎	0a	0a
鳥	0c	0c (トーガ0c)
西	0c	0c
庭	0a	0a
布	0a	0a
軒	0c	0c
灰	0b	0b(ハエ)
蠅	0b(0a)	0b
箱	0a	0a
端	0c(ハジ)	0c(ハシ)
蓮(ハス)	0c	0c
縁(ハタ)	0a	0a
蜂	0c	0c
鼻	0a	0a
羽根	0a	0a
稗(ヒエ)	(希)1	(希)0a, 0b(ヒェー)
髯	0a	0a(フゲ)
膝(ヒザ)	0a	0a(フザ)
菱	2	(希)0cか
暇	0a	0a(フマ)
紐	0a	0a(フモ)
鰭(ヒレ)	2	2
笛	0a	0b(フェー)
鱶(フカ)	0a	0a
藤	0c	0c
蓋	0a	0a
札	0a	0a
筆	0a	0a
臍(ヘソ)	0a	0a
星	0c	0c
舞(マイ)	0b	0b
的	0a	0a
真似	0a	0a
右	0c	0c
水	0c	0c

	S	T
道	0c	0c
峰	1	0a
宮	0a	0a
虫	0c	0c
棟(ムネ)	2	2
籾(モミ)	0c	0c
桃	0a	0a
森	0c	0c
藪	0c	0c
槍	0c	0c (ヤーガ0c)
床(ユカ)	0a	0a
百合	0c	0c
宵(ヨイ)	0b	0b
横	0a	0a
嫁	0a	0a
○II－2類		
痣	2	0a
鯵(アジ)	0c	0c
彼(アレ)	0a	0a (アーガ0c)
栗毬(イガ)	2	2(エガ)
石	0c	0c(エシ)
岩	0a	0a(エワ)
歌	2	2(オタ)
音	0a	0a
垣	(希)0c (2もか)	0c
方(カタ)	2	2
型	0a	0a
門(カド)	1	1
紙	0c	0c
殻	0a	0a
川	0a	0a
北	0a	0a
牙	2	0a
杭	1,0b	0b
串	2	2′(0cもか)
鞍	2	2
頃(コロ)	2,0a	0a
下(シモ)	2	2
蟬	0c	0c
旅	2	0c
度	2	0c
為(タメ)(～ニ)	2	0a
塚	2	2

	S	T
次	1	1
蔦(ツタ)	2	2(0aもか)
妻	1	0a
褄(ツマ)	(希)0a	0a
弦(ツル)	1	1
梨	0c	0c
夏	0c	0c
虹	1	1
橋	0c	0c
旗	0a	0a
機(ハタ)	0a	0a
肘(ヒジ)	2	0c (フジもか)
人	0a	0a(フト)
姫	1	(希)0a (オフメサン3c)
昼	0c	0c(フル) (フィーガ0c)
文(フミ)	1	1
冬	0c	0c
町	0c	0c
胸	2,0a	0a
村	2,0a	0a
八重(ヤエ)	(希)1	0a
故(ユエ)	2	2(0aもか)
雪	0c	0c
余所(ヨソ)	0a	0a
業(ワザ)	2	2
○II－3類		
垢	2	2
麻	2,1	2
足	2	2′
明日(アス)	2	(希)2′
孔(アナ)	2	2
網	1	2′
綾(アヤ)	2	2
泡	2	2
家(イエ)	2	2
池	2	2
犬	1	1 (古はエノ2)
芋	2	2(エモ)
色	2	2(エロ)
蛆	2	2′,2
腕	2	2
畝(ウネ)	NR	0a
馬	2	2

	S	T
膿	1,2	2′
裏	2	2
鬼	1	1
親	2	2
貝	1	1
鍵	2	2′
勝ち	2	2′
神	1	1
髪	2	2′
瓶(カメ)	1	1
皮	2	2
菊	2	2′
岸	2	1,2′,2
肝	2	2
際(キワ)	2	2
茎	2	2′
草	2	2
櫛	2	2′
糞(クソ)	2	2
靴	2	2′(幼児語は1)
熊	2	2
組	2	2′
雲	2	2
倉	2	2
栗	1	1
桑	(希)2	0a
恋	1	1
苔	2	2
事	2	2
米	2	2
竿(サオ)	2	2
坂	2	2
銹(サビ)	2	2′
塩	2	2
潮(シオ)	2	2
舌	2	2
島	2	2
標(シメ)	2	2
霜	2	2
尻	2	2′(シーガ)
鮨(スシ)	2	2′
脛(スネ)	2	2
炭	2	2′
墨	2	2′

	S	T
芹(セリ)	1	1
鯛	1	1
丈	2	2
太刀(タチ)	1	2′,1
谷	0c	0c
玉	2	2
柄(ツカ)	2	2
月	2	2′
土	2	2′
綱	2	2
角(ツノ)	2	2
面(ツラ)	2	2
弟子	2	2′
塔	1	1
時	2	2′
毒	2	2′
年	2	2′
波	2	2′(0cもか)
縄	2	2
糠(ヌカ)	2	2
熨斗(ノシ)	1	1
後(ノチ)	2(1の人も)	1
蚤(ノミ)	1	1
海苔(ノリ)	1	1
墓	2	2
萩	1	1
刷毛(ハケ)	2	2
恥	2	2′
鉢	0c	2′
撥(バチ)	2	1,2′
花	2	2
浜	2	2
腹	2	2
晴れ	1,2(希)	2
蹕(ヒビ)	2	2′
房	2	0a
節(フシ)	2	2′
縁(フチ)	2	2′
堀	0c	0c(ホーガ0c)
幕	2	2′
孫	2	2
枡	2	2′
胯(マタ)	2	2
豆	2	2

	S	T
鞠(マリ)	1	1
店	2	2
耳	2	2′
室(ムロ)	2	2
姪(メー)	1	1
物	2	2
樹脂(ヤニ)	0c	0c
山	2	2
闇	2	2′,2
指	2	2′
弓	2	2′
夢	2	2
脇	2	2′
腋(ワキ)	2	2′
枠(ワク)	2	2′
綿(ワタ)	2	2
鰐(ワニ)	1	1
○II－4類		
跡	2(1)	2
尼	(希)0a(アマサン0a)	0a
粟(アワ)	2,1(希)	2
息	2(1)	2′
板	2(1)	2(エタ)
市(イチ)	1	1,2′
何時(イツ)	1,2′	1,2′(エツ)
糸	2(1)	2
稲	2(1)	2
臼	1	1(古はオス1)
海	1	1
瓜	1	1
帯	1	2′,1(新)
櫂(カイ)	1	1
笠	2(1)	2
糟(カス)	2(1も聞)	2′
数	1	1
肩	2(1)	2
角(カド)	1,2	1
鎌	2(1)	2
上(カミ)	(希)1	1
絹	1	1
杵(キネ)	2(1)	2
今日(キョー)	1	1
錐(キリ)	1	1

	S	T
屑(クズ)	2(1)	2′
管(クダ)	2	2
今朝(ケサ)	1	1
桁(ケタ)	0a	0a
下駄(ゲタ)	0a	0a
鞘(サヤ)	2	2
汁	1	1(シーガ)
筋(スジ)	2(1)	2′
隅	1,2	1
銭	2(1も聞)	1(ジェン)
外(ソト)	2(1)	2
側(ソバ)	2(1)	2
空	1,2	2
種	2(1)	2
父	2	1
乳	2	2′,2
杖	2	2
槌(ツチ)	(希)2	2′
鍔(ツバ)	2	2
粒	1	2′,1
罪	1	1
咎(トガ)	2	2
苗	2(1)	2
中	2(1)	2
何	1,2,2′	1,2′
主(ヌシ)	1	2′,1
鑿(ノミ)	1	1
箸	1	1
肌	2(1)	2
針	1	1
舟	2(1)	2
紅(ベニ)	1	1(2′もか)
箆(ヘラ)	2	2
他(ホカ)	0a	0a
松	1	1
味噌	2(1)	2
蓑(ミノ)	2	2(0aもか)
麦	1	1,2′
宿	2(1)	2
罠(ワナ)	2(1)	2
藁(ワラ)	2,1	2
我(ワレ)	1	1(ワー《お前》)

	S	T
○II－5類		
藍(アイ)	1	1
青	1	1
赤	1	1
秋	1	1
朝	1	1
汗	2(1)	2
兄	1	1
虻(アブ)	1	1
雨	2(1)	2
鮎(アユ)	1	1
井戸	2(1)	2
桶(オケ)	2(1)	2
牡蠣(カキ)	1	1
蔭	2(1)	2
黍(キビ)	NR	(希)2′,1
蜘蛛	2(1)	2
黒	1	1
鯉	1	1
声	2(1)	2
琴	1	1
鮭	1	1
猿	1	1
白	1	1
縦	2(1)	2
足袋(タビ)	1	1
常(～ニ)	2(1)	2
露	1	1
鶴	1	1(ツーガ)
鍋	2(1)	2
鱧(ハモ)	1	1
春	1	1(ハーガ)
蛭(ヒル)	1	(ヒールン0b)
鮒(フナ)	2(1)	2
蛇	1	1
前	1,2(希)	2
窓	2(1)	2
眉	1	1(マエ)
繭(マユ)	1	1(マエ)
聟(ムコ)	2(1)	2
股(モモ)	2	2
○II－x類		
上(ウエ)	0a	0a

	S	T
うち	0c	0c
先(サキ(の大臣))	1	0c
下(シタ)	0a	0a
程	2か	0a《夫婦仲》
亀	1	1
鴨	1	1
蛸	1	1
鳩	1	1
今	1	1
夜	1	1
ここ	2	2
そこ	2	2
沖	1(2もか)	1
奥	1	1
供(トモ)	1	1
本(モト)	2	2
元(モト)	2	2
許(モト)	2	2
○II－その他		
顎(アゴ)	2	2
味	0c	0c
椅子	1	1
嘘	2(1)	2
おじ	0c	0c
おば	0a	0a
舵(カジ)	1	0c
火事	1	1
独楽(コマ)	1	0a
縞(シマ)	2	2
砂	0a	0a
咳	2	2′
堰(セキ)	(希)2か	(希)2′(1もか)
蕎麦(ソバ)	2(1)	2
凧(タコ)	1	1
樽	0c	0c(ターガ0c)
鉄	2	2′
寺	0a	0a
土手	0a	0a(2もか)
溝(ドブ)	0c	0c
茄子	(希)1(ナスビ0a)	(ナスビ0a)
謎	0a	0a
肉	2	2′
沼	0a	0a

	S	T
猫	1	1
喉(ノド)	2(1)	2
糊(ノリ)	1	1
母	1	0a
服	2	2′
豚	2	2
風呂	2	2
骨	2	2
薪(マキ)	0c	0c
溝(ミゾ)	0a	0a
飯(メシ)	1	1
百舌(モズ)	1	1
餅(モチ)	0c	0c
靄(モヤ)	2(1)	2
山羊(ヤギ)	1	1
屋根	2(1)	2
湯気	2,1(希)	2
缶(カン)	1	1(クヮン)
勘	0b	0b
九(キュー)	1	1
金(キン)	1	1
銀	1	1
三	0b	0b
十(ジュー)	1	1
象	1	0b
天	1	1
十(トー)	0b	0b
晩	0b	0b
番	1	1
パン	1	1
瓶(ビン)	1	1
塀(ヘー)	0b	0b
ペン	1	1
棒	0b	0b
本(ホン)	1	1
盆(行事)	1	1
盆(入物)	0b	0b
門(モン)	1	1
用(ヨー)	1	1
蠟(ロー)	1	1
○Ⅲ－1類		
葵(アオイ)	0a	0a
値(アタイ)	0a	0a

	S	T
霰(アラレ)	0a	0a
筏(イカダ)	0a	0a
錨	0a	0a(イカー)
田舎	0a	0a
厳(イワオ)	0a	0a
鰯(イワシ)	0a	0a(エワシ)
嗽(ウガイ)	0a	0a
漆(ウルシ)	0a	0a
痘(オーシ)	1(オシ)	0c(オシ)
夫	0c	0c
踊	0a	0(オドー)
己(オノレ)	0a	0a(オノー)
終	0a	0a(オワー)
籌(カガリ)	0a	0a
飾	0a	0a(カザー)
霞	0a	0a
形	0a	0a
鰹	0c	0c (カッツォ)
桂	(希)1か	0c
骸(カバネ)	0a	0a
蕪菁(カブラ)	0c	0c
竈(カマド)	0a	0a
河原	0a	0a
着物	3a,0a(希)	3a,0a(キモノ) 0a(キモン)
鎖	0a	0a(クサー)
轡(クツワ)	0c	0c
位	0a	0a
車	0c	0c
煙	0a	0a(ケムー)
仔牛	0a	0a
麹(コージ)	0b	0b
氷	0b	0b
今年	0a	0a
子供	0a	0a
小鳥	0a	0a(コトー)
小山	0a	0a
今宵(コヨイ)	0a	0a
衣	0a	0a
魚(サカナ)	0a	0a
盛	0a,3a	0a(サカー)
桜	0c	0c
悟り	0a	0a(サトー) (サトリは3a′もか)
障り(サワ)	0a	0a(サワー)
舅(シュート)	0b	0b

	S	T
障子(ショージ)	0b	0b (3b′もか)
印(シルシ)	0a	0a
仕業(シワザ)	0a	0a
鱸(スズキ)	0a	0a
相撲	0a	0a
薪(タキギ)	0a	0a
畳	0a	0a(タタン)
粽(チマキ)	0a	0a
序(ツイデ)	0b	0b
使い	0a	0a(ツカエ)
机	0c	0c
常盤(トキワ)	0c	0c
隣	0a	0a(トナー)
泊り	0a	0a(トマー)
名前	0a	0a
膠(ニカワ)	(希)0a	0a
寝言	0a	0a
望み	0a,3a	0a(ノゾン) (ノゾミは3a′も)
昇り	0a	0a(ノボー)
初め	0c	0c
蓮(ハチス)	NR	NR
二十日	0c	0c
鼻血	0a	0a
埴輪(ハニワ)	0c	0c
庇(ヒサシ)	0a	0a(フサシ)
額(ヒタイ)	0a	0a(フタエ)
棺(ヒツギ)	0a	0a
羊	0a	0a
日照	0a	0a(フデー)
日和(ヒヨリ)	0a	0a(フヨー)
二日	0c	0c
布海苔(フノリ)	NR	0a(フノー)
埃(ホコリ)	0a	0a(ホコー)
味方	0a	0a,3a
帝	0a	0a
汀(ミギワ)	0c	0c
操(ミサオ)	0a	0a
霙(ミゾレ)	0a	0a
三日	0c	0c
港	0a	0a
都	0a	0a
深山(ミヤマ)	0a	0a
六日	0b	0b(モイカ)
昔	0a	0a

	S	T
息子	0c	0c
櫓(ヤグラ)	0c	0c
鏃(ヤジリ)	0a	0a (ヤジーともか)
奴(ヤッコ)	0c	0c
柳	0a	0a
寡婦(ヤモメ)	0a	0a
八日	0b	0b
涎(ヨダレ)	3a	3a
四日	0c	0c
鎧(ヨロイ)	0a	0a
渡り	0a	0a(ワター)
○III－2類		
小豆(アズキ)	0a	0a
女	3b	3b
毛抜	0a	0a
東	0a	0a(フガシ)
二重(フタエ)	2	0a
二つ	0a	0a
二人	3a,0a	0a(フター)
三つ	0c,3c, 0b,3b	0b
娘	0c,3c	0c,3c (古はモスメ)
六つ	0c,3c, 0b,3b	0b
八つ	0c,3c, 0b,3b	0b
夕べ(昨晩)	1	0b,3b (ヨンベ)
四つ	0c,3c, 0b,3b	0b
○III－4類		
明日(アシタ)	3c	3c
頭(アタマ)	3a	3a
余り	3a	3a′
袷(アワセ)	3a	3a
軍(イクサ)	0c	0c(エクサ)
鼬(イタチ)	0a	0a(エタチ)
痛み	3a	3a′,3a (エタミ)
五日	3c	3c
暇(イトマ)	0a	(希)0a,3a
祈	3a	3a′(エノー)
潮(ウシオ)	0c	0c(ウッショ)
鶉(ウズラ)	0c	3c
団扇(ウチワ)	3c	3c
項(ウナジ)	0a	0a
厩(ウマヤ)	0a	0a

	S	T
恨	3a	3a′
扇(オーギ)	0b	0b
恐れ	3a	3a
男	3a	3a
思い	2	2
表(オモテ)	3a	3a
鏡	3a	3a′
頭(カシラ)	3c	3c
敵(カタキ)	3a	3a′
刀	3a	3a
鉋(カンナ)	1,3b(希)	3b
昨日(キノー)	0a,2	0b (キンノー)
言葉	3a	3a
暦	3a	3a′
境	2	2
定め	3a	3a
白髪(シラガ)	2	2
硯(スズリ)	3a	3a′
住居(スマイ)	1	2
捜処(スミカ)	1	3c
宝	3a	3a
類(タグイ)	2	3a′
助け	3c	3c
谷間	0c(3cもか)	0c
頼み	3a	3a′(タノン)
験(タメシ)	3a	3a′
袂(タモト)	3a	3a
俵	3a	3b(ターラ)
包み	3a	3a′(ツツン)
鼓(ツヅミ)	3a	3a′
勤め	3a	3a
唾液(ツバキ)	(希)0a,3a (ツバ2)	0a
剣(ツルギ)	0a	0a,3a′ (2もか)
峠	3b	3b
俘(トリコ)	3c	3c(トーコ)
流れ	3a	3a
渚(ナギサ)	0c	0c
歎き	3a,0a	3a′
七日	0a(ナノカ)	3c(ナンカ)
鯰(ナマズ)	0a	0a
匂い	2,0a	2
縫目(ヌイメ)	3b	3b
願い	2	2
袴(ハカマ)	3a	3a

	S	T
鋏(ハサミ)	3a	3a′
林	0a	0a
光	3a	3a′(フカー)
響き	3a	3a′
袋	3c	3c
襖(フスマ)	0c	0c
仏	0a	3a
蓆(ムシロ)	0c	0c
族(ヤカラ)	0a	0a
別れ	3a	3a
○III－5類		
朝日	2(1)	2
油	0c	0c
主(アルジ)	1	0a(3a′もか)
鮑(アワビ)	2(1)	2
哀れ	2(1)	3a
五つ	2	2
従兄弟(イトコ)	2(1)	2
命	2(1)	2(エノチ)
親子	2(1)	2
神楽(カグラ)	3c	3c
鰈(カレー)	1	1
胡瓜(キューリ)	0b,1	0b
心	3a,2	3a
柘榴(ザクロ)	0c	0c
姿	2,3a(1)	3a
簾(スダレ)	3a	3a
襷(タスキ)	3c	3c′,3c
情(ナサケ)	3a(1)	3a
茄子(ナスビ)	0a(1)	0a
涙	1,0c	0c(ナンダ)
錦	1,3c	3c(1は新)
柱	0c	0c
単衣(ヒトエ)	2	2
火箸	0a	0a(フバシ)
箒(ホーキ)	0b	0b
枕	0c(1)	0c
眼(マナコ)	(希)2(1)	2
紅葉(モミジ)	2(1)	2
山葵(ワサビ)	2(1)	2
○III－6類		
菖蒲(アヤメ)	0a	0a

	S	T
孰れ(イズ)	0c	3c
兎	2,1	2(オサギ)
鰻	0a	0a(オナギ)
大人(オトナ)	0a	0a
蛙	0a	0b
鷗(カモメ)	0a	0a
狐	0c	0c
虱(シラミ)	0a	0a
芒(ススキ)	0a	0a,3a′
雀	0c	3c(0cもか)
李(スモモ)	0a	0a
背中	0a	0a
高さ	2,1	2
団子(ダンゴ)	0b	0b
田圃(タンボ)	0b	0b
燕(ツバメ)	0a	0a
長さ	2,1	2
鼠	0a	0a
裸	0a	0a
跣足(ハダシ)	0a	0a
左	0a	0a(フダー)
雲雀(ヒバリ)	0a	0a(ヒバー)
広さ	2,1	2
誠	0a	0a
蚯蚓(ミミズ)	0a	0a
蓬(ヨモギ)	0a	0a
○III－7類		
苺	3c	3c
後(ウシロ)	3c,1	3c(1は新)
蚕(カイコ)	1	1
兜	1	1
辛子(カラシ)	3a	3a′
鯨	3c,0c	3c
薬	0a	0a(古はクソー)
卵	0a,2	0a(2は新)
便り	3a,2(1)	3a′(タヨー)
盥(タライ)	0a	0a
千鳥	2(1)	2
椿	0a(1)	0a
鉛	0a	0a(ナマー)
畠	0a	0a
一つ	2	2(フトツ)
一人	2	2(フトリ)

	S	T
緑	2(1)	2(ミドー)
病(ヤマイ)	2(1)	2(ヤマエ)
○III－x類		
間(アイダ)	0b	0b
所	3a	3a
欠伸(アクビ)	0a	0a
胡座(アグラ)	0c	0c
足駄(アシダ)	NR	0c
草鞋(ワラジ)	0a	0a
あたり(辺)	1	0a(アター)
あなた	2	1(アンタ)
嵐	1,2	0a
力	3a	0a(チカー)
二十歳	1	0a
向う(ムコー)	0a	0a
柏	0c	0c,3c(新か)
釣瓶(ツルベ)	3c	0c(ツーベ)
蜥蜴(トカゲ)	0a	0a
斜め	2	2
蕨(ワラビ)	2(1)	0a
仲間	3a	0a
盲	3c	3c
狸	2,1	0a(タノキ)
蛍	1	0a(ホター)
炎	2(1)	2(ホノホ)
社(ヤシロ)	3c	0c
烏(カラス)	2(1)	2
泉	0a	0a(エズン)
翁(オキナ)	1	(希)3c
栄螺(サザエ)	2(1)	2
翼(ツバサ)	0a	0a,3a
麓(フモト)	3a	3a
御輿(ミコシ)	0a(1もか)	0a
南	0a	0a(ミナン)
◎動詞		
○I・II－1類		
居る(イ)	0a	0a
着る	0a	0a(キー)
為る(ス)	0a	0a(スー)
似る	0a	0a
煮る	0a	0a(ニーもか)
寝る	0a	0a(ネー)

	S	T
○I・II－2類		
得る	1	(希)1
来る	1	1(クー)
出る	1	1(デー)
経る(ヘ)	1	(希)1
見る	1	1(ミー)
○II－1類		
明く(ア)	0a	0a
言う	0b(ユー)	0b(ユー)
住ぬ(イ)	0a	0a(エヌ)
入る(イ)	0a	(希)0a
産む	0a	0a(ウン)
売る	0a	0a(ウー)
追う	0a(オウ) 0b(オー)	0b(オー)
置く	0a	0a
押す	0a	0a
織る	1	1(オー)
買う	0a	0a(カー)
欠く	0a	0a
嗅ぐ	0a	0a
貸す	0a	0a
苅る	0a	0a(カー)
聞く	0a	0a
汲む	0a	0a
消す	0a	0a(キヤス0a)
越す	0a	0a
咲く	1	1
去る	1	0a(サー)
敷く	0a	0a
死ぬ	0a	0a
知る	0a	0a
吸う	0a(スウ) 0b(スー)	0b(スー)
鋤く(ス)	0a	0a
透く	0a	0a
添う	0a(ソウ) 0b(ソー)	0b(ソー)
焚く	0a	0a
足す	0a	0a
散る	0a	0a(チー)
突く	1	0a
継ぐ	0a	0a
積む	0a	0a(ツン)
摘む	0a	0a(ツン)

	S	T
釣る	0a	0a(ツー)
問う	{0a(トウ) 0b(トー)}	0b(トー)
飛ぶ	0a	0a
泣く	0a	0a
鳴く	0a	0a
鳴る	0a	0a(ナー)
抜く	0a	0a
塗る	0a	0a(ヌー)
乗る	0a	0a(ノー)
履く	0a	0a
張る	0a	0a(ハー)
貼る	0a	0a(ハー)
引く	0a	0a
弾く(ヒ)	1	0a
退く(ヒ)	0a	0a
茸く(フ)	1(0aもか)	1(0aもか)
拭く	0a	0a
踏む	0a	0a(フン)
振る	0a	0a(フー)
舞う	0a	0b(マウ,マー)
巻く	0a	0a
増す	0a	0a
向く	0a	0a
揉む	0a	0a(モン)
盛る	0a	0a
焼く	0a	0a
止む	0a	0a
遣る	0a	0a(ヤー)
結う	{0a(ユウ) 0b(ユー)}	0b(ユー)
行く	0a(イク)	0a(イク)
呼ぶ	0a	0a
依る	0a	(希)0a
寄る	0a	0a(ヨー)
沸く	0a	0a
湧く	0a	0a
割る	0a	0a(ワー)
○II－2類		
合う	1	1(アー)
飽く	(希)1	1
編む	1	1(アン)
有る	1	1(アー)
打つ	1	1
討つ	1	1

	S	T
倦む	1	1
膿む	1	1
折る	1	1(オー)
飼う	1	1(カー)
書く	1	1
掻く	1	1
勝つ	1	1
噛む	1	1(カン)
切る	1	1(キー)
食う	1	1
組む	1	1(クン)
繰る(ク)	1	(希)1
乞う(コ)	1	1(コー)
扱く(コ)	1	1
漕ぐ	1	1
裂く	1	1
指す	1	1
刺す	1	1
住む	1	1(スン)
澄む	1	1(スン)
磨る(ス)	1	1(スー)
堰く(セ)	1	(希)1
剃る(ソ)	1	1(ソー)
立つ	1	1
断つ	1	1
絶つ	1	1
附く	1	1
着く	1	1
搗く(ツ)	1	1
照る	1	1(テー)
解く	1	1
研ぐ	1	1
取る	1	1(トー)
綯う(ナ)	1	1(ナー)
為す(ナ)	1	1
成る	1	1(ナー)
生る(ナ)	1	1(ナー)
縫う	1	1
脱ぐ	1	1
練る	1	1(ネー)
のす	1	1
飲む	1	1(ノン)
這う(ハ)	1	1(ハー)
掃く	1	1

	S	T
吐く	1	1
剝ぐ(ハ)	1	1
吹く	1	1
伏す	1	1
降る	1	1(フー)
干す	1	1
堀る	1	1(ホー)
彫る	1	1(ホー)
蒔く(マ)	1	1
撒く(マ)	1	1
待つ	1	1
蒸す(ム)	1	1
召す	1	1
持つ	1	1
漏る	1	1(モー)
病む	1	0a
読む	1	1(ヨン)
縒る(ヨ)	1	1(ヨー)
酔う	1	1(ヨー)
○II－x類		
居る(オ)	0a	0a(オー)
○II－その他		
浮く	0a	0a
抱く	0a	0a
減る	0a	0a(ヘー)
出す	2	2
○II・III－1類		
明ける	0a	0a(アケー)
上げる	0a	0a(アゲー)
当てる	0a	0a(アテー)
荒れる	0a	0a(アレー)
入れる	0a	0a(イレー)
植える	0a	0a(ウエー)
失せる	2	0a(ウシェー)
埋める	0a	0a(古オメー)
終える	0a	0a(オエー)
替える	0a	0a(カエー)
欠ける	0a	0a(カケー)
借りる	0a	0a(カリー)
枯れる	0a	0a(カレー)
消える	0a	0a(キエー)

	S	T
着せる	0a	0a(キシェー)
暮れる	0a	0a(クレー)
呉れる	0a	0a(クレー)
越える	0a	0a(コエー)
染みる	0a	0a(シミー)
据える	0a	0a(スエー)
助ける(ス)	NR	0a(スケー)
捨てる	0a	0a(ステー)
捨てる	0a	0a(ステー)
添える	0a	0a(ソエー)
染める	0a	0a(ソメー)
尽きる	2	2(ツキー)
漬ける	0a	0a(ツケー)
告げる	0a	0a(ツゲー)
抜ける	0a	0a(ヌケー)
漏れる	0a	0a(ヌレー)
戴せる	0a	0a(ノセー)
腫れる	0a	0a(ハレー)
惚れる(ホ)	0a	0a(ホレー)
負ける	0a	0a(マケー)
曲げる	0a	0a(マゲー)
咽せる(ム)	0a	2(ムシェー)
燃える	0a	0a(モエー)
痩せる(ヤ)	0a	0a(ヤシェー)
止める(ヤ)	0a	0a(ヤメー)
寄せる	0a	0a(ヨシェー)
佗びる(ワ)	0a	2(ワビー)
○II・III－2類		
壷える(ア)	0a	2(アエー)
癒える(イ)	2	2(イエー)
生きる	2	2(イキー)
出でる(イ)	2	(希)2
飢える	2	2(ウエー)
受ける	2	2(ウケー)
生いる(オ)	(希)2	(希)2
老いる(オ)	2,2b	2
起きる	2	2(オキー)
落ちる	2	2(オチー)
佩びる(オ)	2	2(オビー)
下りる	2	2(オリー)
掛ける	2	2(カケー)
兼ねる	2	2(カネー)
籠める(コ)	2	2(コメー)

	S	T
悔いる(ク)	2,2b	2
朽ちる	2	2(クチー)
肥える	2	2(コエー)
冴える(サ)	2	2(サエー)
覚める	2	2(サメー)
強いる(シ)	2,2b	1(シール)
占める	2	2(シメー)
締める	2	2(シメー)
過ぎる	2	2(スギー)
攻める	2	2(シェメー)
耐える	2	2(タエー)
絶える	2	2(タエー)
闌ける(タ)	2	(希)2
建てる	2	2(タテー)
矯める(タ)	2	NR
垂れる	2	2(タレー)
詰める	2	2(ツメー)
解ける	2	2(トケー)
遂げる	2,0a	2(トゲー)
閉じる	0a	0a(トジー)
投げる	2	2(ナゲー)
撫でる(ナ)	2	2(ナデー)
舐める(ナ)	2	2(ナメー)
馴れる	2	2(ナレー)
逃げる	2	2(ニゲー)
延びる	2	2(ノビー)
述べる	2	2(ノベー)
化ける(バ)	2	2(バケー)
恥じる	2	2(ハジー)
果てる	2	2(ハテー)
跳ねる	2	2(ハネー)
晴れる	2	2(ハレー)
更ける(フ)	2	2(フケー)
伏せる	2	2(フシェー)
吠える(ホ)	2	2(ホエー)
耄ける(ボ)	2	2(ボケー)
誉める	2	2(ホメー)
見える	2	2(ミエー)
見せる	2	2(ミシェー)
漏れる	2	2(モレー)
茹でる(ユ)	2	2(エデー)
分ける	2	2(ワケー)
○II・III－その他		

	S	T
決める	0a	0a(キメー)
足りる	0a	0a(タリー)
止める(ト)	0a	0a(トメー)
煮える	0a	0a(ニエー)
焼ける	0a	0a(ヤケー)
割れる	0a	0a(ワレー)
切れる	2	2(キレー)
下げる	2	2(サゲー)
食べる	2	2(タベー)
附ける	2	2(ツケー)
溶ける	2	2(トケー)
殖える(フ)	2	1(フェー)
○III－1類		
明かす	0a	0a
上がる	0a	0a(アガー)
遊ぶ	0a	0a
当たる	0a	0a(アター)
洗う	0a	0a(アラー)
荒らす	0a	0a
怒る(イカ)	2	2(イカー)
勇む	2	0a
致す	2	0a(エタス)
至る	2	0a(エター)
浮ぶ	0a	0a
歌う	0a	0a(ウター)
犯す	0a	0a
送る	0a	0a(オクー)
贈る	0a	0a(オクー)
威す	0a	0a
躍る	0a	0a(オドー)
踊る	0a	0a(オドー)
及ぶ	0a	0a
終る	0a	0(オワー)
香る	0a	(希)0a
屈む(カガ)	0a	0a(カガン)
囲う	0a	0a(カコー)
囲む	0a	0a(カコン)
飾る	0a	0a(カザー)
語る	0a	0a(カター)
通う	0a	0a(カヨー)
枯らす	0a	0a
代わる	0a	0a(カワー)
変わる	0a	0a(カワー)

	S	T
刻む(キザ)	0a	0a(キザン)
来す(キタ)	2	2
嫌う	0a	0a(キラー)
括る(クク)	0a	2(ククー)
下だす	0a	0a
下だる	0a	0a(クダー)
窪む	0a	0a(クボン)
食らう	0a	0a(クラー)
暮らす	0a	0a
削る	0a	0a(ケズー)
凝らす(コ)	2	2
殺す	0a	0a
捜す	0a	0a
探る	0a	0a(サグー)
諭す(サト)	2	2
悟る	0a	0a(サトー)
晒らす(サ)	0a	0a
触わる	0a	0a(サワー)
沈む	0a	0a(シズン)
慕う	0a	0a(シター)
忍ぶ	0a	2
印す	2	0
掬う(スク)	0a	0a(スクー)
救う	0a	0a(スクー)
竦む(スク)	0a	0a(スクン)
荒ぶ(スサ)	2	2
濯ぐ(スス)	0a	0a
進む	0a	0a(ススン)
啜る(ススル)	0a	0a(ススー)
注ぐ(ソソ)	0a	2
畳む	0a	0a(タタン)
誓う	0a	0a(チカー)
違う(チガ)	0a	0a(チガー)
散らす	0a	0a
使う	0a	0a(ツカー)
尽す	2	2
続く	0a	0a
繋ぐ(ツナ)	0a	0a
積もる	2	2(ツモー)
飛ばす	0a	0a
名乗る	2	2(ナノー)
鳴らす	0a	0a
並ぶ	0a	0a
握る	0a	0a(ニギー)

	S	T
濡らす	0a	0a
眠る	0a	0a(ネムー)
覗く(ノゾ)	0a	0a
望む	0a	0a(ノゾン)
臨む	0a	0a(ノゾン)
昇る	0a	0a(ノボー)
運ぶ	0a	0a
外す(ハズ)	0a	0a
拾う	0a	0a(ヒロー)
塞ぐ(フサ)	0a	0a
振う	0a	0a(フルー)
奮う	0a	0a(フルー)
誇る	2	0a(2もか)
曲る	0a	0a(マガー)
勝る(マサ)	2	2(マサー)
祭る	0a	0a(マツー)
学ぶ	0a	0a
磨く	0a	0a
向う(ムカ)	0a	0a(ムカー)
毟る(ムシ)	0a	0a(ムシー)
結ぶ	0a	0a(モスブ)
咽ぶ(ムセ)	2	2
巡る	0a	0a(メグー)
貰う	0a	0a(モラー)
歪む(ユガ)	0a	0a(ユガン)
揺る(ユス)	0a	0a(ユスー)
譲る	0a	0a(ユズー)
沸かす	0a	0a
渡す	0a	0a
渡る	0a	0a(ワター)
笑う	0a	0a(ワラー)
○III－2類		
扇ぐ(アオ)	2	2
発く(アバ)	2	2
余す	2	2
余る	2	2(アマー)
歩む	2	2
憩う(イコ)	2	2(イコー)
急ぐ	2	2
痛む	2	2
厭う(イト)	2	2(イトー)
挑む	2	2(イドン)
祈る	2	2(エノー)

	S	T
癒す(イヤ)	2	2
祝う	2	2(イワー)
穿つ(ウガ)	2	2
動く	2	2(エゴク)
移す	2	2
移る	2	2(ウツー)
奪う	2	2(ウバー)
恨む	2	2
潤む	2	2(ウルン)
描く	2	2
選ぶ	2	2
拝む	2	2
起こす	2	2
起こる	2	2(オコー)
惜しむ	2	2
落とす	2	2
思う	2	2(オモー)
泳ぐ	2	2
下ろす	2	2
返す	2	2
帰る	2	2(カエー)
孵る(カエ)	2	2(カエー)
懸る	2	2(カカー)
限る	2	2(カギー)
炊ぐ(カシ)	2	NR
稼ぐ(カセ)	2	2(カシェグ)
担ぐ(カツ)	2	2
叶う(カナ)	2	2(カナー)
被る(カブ)	2	2(カブー)
構う(カマ)	2	2(カマー,カモー)
絡む(カラ)	2	2
乾く	2	2
軋る(キシ)	2	2(キシー)
競う(キソ)	2	2(キソー)
潜る(クグ)	2	2(クグー)
挫く(クジ)	2	2
抉る(クジ)	2	2(クジー)
崩す	0a	0a
砕く	2	2
口説く	2	2
曇る	2	2(クモー)
狂う	2	2(クルー)
好む	2	2(コノン)
溢す(コボ)	2	2

	S	T
籠る(コモ)	2	2(コモー)
懲らす(コ)	2	2
下がる	2	2(サガー)
騒ぐ	2	2
撓う(シナ)	2	2(シナー)
凌ぐ(シノ)	2	2
縛る	2	2(シバー)
絞る	2	2(シボー)
過す	2	2
滑る	2	2(スベー)
すます	2	2
迫る	2	2(シェマー)
育つ	2	2
背く(ソム)	2	2
倒す	2	2
違う(タガ)	2	2(タガー)
手繰る(タグ)	2	2(タグー)
叩く	2	2
正す	2	2
頼む	2	2(タノン)
給う(タモ)	2	2(タモー)
弛む(タユ)	2	2
摑む(ツカ)	2	2(ツカン)
作る	2	2(ツクー)
包む	2	2(ツツン)
集う(ツド)	2	2(ツドー)
募る	2	2(ツノー)
紡ぐ(ツム)	2	0a
透す	1	1
通る	1	1
尖る(トガ)	0a	0a(トガー)
届く	2	2
響む(ドヨ)	2	2
直す	2	2
直る	2	2(ナオー)
流す	2	2
歎く	2	2
詰る(ナジ)	2	2(ナジー)
泥む(ナズ)	2	2(ナズン)
懐く(ナツ)	2	2
靡く(ナビ)	2	2
嬲る(ナブ)	2	2(ナブー)
悩む	2	2(ナヤン)
習う	2	2(ナラー)

	S	T
匂う	2,0a	0a(ニオー)
憎む	2	2
濁る	2	2(ニゴー)
担う	2	2(ニナー)
睨む(ニラ)	2	2(ニラン)
拭う(ヌグ)	2	2(ヌグー)
盗む	2	2(ヌスン)
願う	2	2(ネガー,ネゴー)
嫉む(ネタ)	2	2(ネタン)
遺す	2	2
残る	2	2(ノコー)
延ばす	2	2
計る	2	2(ハカー)
謀る(ハカ)	2	2(ハカー)
励む	2	2(ハゲン)
挟む(ハサ)	2	2(ハサン)
弾く(ハジ)	2	2
走る	2	2(ハシー)
果す(ハタ)	2	2
放つ	2	2
払う	2	2(ハラー)
孕む(ハラ)	2	2(ハラン)
僻む(ヒガ)	2	2(ヒガン)
光る	2	2(ヒカー)
浸す	0a	2
捻る(ヒネ)	2	2(ヒネー)
響く	2	2
開く	2	2
ひるむ	2	2(ヒルン)
含む	2	2(フクン)
耽る(フケ)	2	2(フケー)
防ぐ	2	2(フシェグ)
肥る(フト)	2	2(フトー)
紛う(マガ)	2	(希)2(マゴー)
罷る(マカ)	2	2(マカー)
交じる(マ)	2	2(マジー)
惑う(マド)	2	2(マドー)
招く	2	2
守る	2	2(マモー)
迷う	2	2(マヨー)
恵む	0a	0a(メグン)
申す	1	1
戻る	2	2
漏らす	2	2

	S	T
休む	2	2(ヤスン)
窶す(ヤツ)	2	(希)0a
雇う	2	2(ヤトー)
宿る	2	2(ヤドー)
破る	2	2(ヤブー)
許す	2	2
弛む(ユル)	2	2(ユルン)
装う(ヨソ)	2	(希)2(ヨソー)
分つ(ワカ)	2	2
○III－3類		
歩く	2	2
隠す	2	2
入る(ハイ)	1	1(ハー)
参る	1	1(マー)
○III－その他		
転ぶ	0a	(希)0a マクレー0c
障る(サワ)	0a	0a(サワー)
坐る	0a	0a(スワー)
止まる	0a	0a(トマー)
廻る	0a	0a(マワー)
映る(ウツ)	2	2(ウツー)
怒る(オコ)	2	2(オコー)
却す(オロ)	2	2
困る	2	2(コマー)
揃う	2	2(ソロー)
黙る	2	2(ダマー)
照らす	0a	0a
話す	2	2
放す	2	2
分かる	2	2(ワカー)
○III・IV－1類		
呆れる	0c	0c (アキレー)
与える	0a	0a (アタエー)
溢れる	3c	3c (アフレー)
慌てる	0a	0a (アワテー)
浮べる	0a	0a (ウカベー)
埋める	0c	0c (ウズメー)
生れる	0a	0a (ウマレー)
後れる	0c	0c (オクレー)
教える	0c	0c (オシエー)

	S	T
重ねる	0a	0a (カサネー)
掠める	3c	0c (カスメー)
固める	0a	0a (カタメー)
聞える	0a	0a (キコエー)
比べる	0a	0a (クラベー)
萎れる	3a	3a (シオレー)
勧める	0c	0c (ススメー)
勝れる	3c	0c (スグレー)
廃れる	3a	3a (スタレー)
爛れる	3a	3a (タダレー)
仕える	3a	0a (ツカエー)
伝える	0a	0a,3a (ツタエー)
留める	3a	3a (トドメー)
並べる	0a	0a (ナラベー)
始める	0c	0c (ハジメー)
外れる	0c	0c (ハズレー)
拡げる	0a	0a (ヒロゲー)
脹れる	0c	0c (フクレー)
亡びる	3a	0a (ホロビー)
纏める	3a	3a (マトメー)
迎える	0a	0a (ムカエー)
報いる	3a	3a (ムクイー)
忘れる	0c	0c (ワスレー)
○III・IV－2類		
崇める	3a	3a (アガメー)
預ける	3c	3c (アズケー)
集める	3c	3c (アツメー)
合せる	3a	3a (アワシェー)
憂える	3a	3a (ウレエー)
抑える	3a,0a	0a (オサエー)
納める	3a	3a (オサメー)
修める	3a	3a (オサメー)
恐れる	3a	3a (オソレー)
覚える	3a	3a (オボエー)
数える	3a	3a (カゾエー)
叶える	3a	3a (カナエー)
奏でる	3a	3a (カナデー)
被せる	3c	3c (カブシェー)
構える	3a	3a (カマエー)
絡げる	0a	3a (カラゲー)
清める	3a	3a (キヨメー)
極める	3a	3a (キワメー)

	S	T
崩れる	0c	0c (クズレー)
汚れる	3a	3a (ケガレー)
答える	3a	3a (コタエー)
零れる	3a	3a (コボレー)
毀れる	3a	3a (コワレー)
授ける	3c	3c (サズケー)
定める	3a	3a (サダメー)
鎮める	3c	3c (シズメー)
痺れる	3c	0c (シビレー)
精げる(シラ)	NR	NR
調べる	3a	3a (シラベー)
供える	3a	3a (ソナエー)
倒れる	3a	3a (タオレー)
類える	3c	(希)3c (タグエー)
助ける	3c	3c (タスケー)
尋ねる	3c	3c (タズネー)
湛える	3a	3a (タタエー)
譬える	3a	3a (タトエー)
束ねる	3a	3a (タバネー)
疲れる	3a	0a (ツカレー)
務める	3a	3a (ツトメー)
咎める	3a	3a (トガメー)
流れる	3a	3a (ナガレー)
宥める	3a	3a (ナダメー)
離れる	3a	3a (ハナレー)
開ける	3a	3a (ヒラケー)
弘める	3a	3a (ヒロメー)
隔てる	3a	3a (ヘダテー)
委せる	3a	3a (マカシェー)
紛れる	3c	3c (マギレー)
交える	3c	3c (マジエー)
見える	3c	3c (マミエー)
乱れる	3a	3a (ミダレー)
設ける	3b	3b (モーケー)
儲ける	3b	3b (モーケー)
求める	3a	3a (モトメー)
破れる	3c	3c (ヤブレー)
別れる	3a	3a (ワカレー)
○III・IV－3類		
抱える	3a	3a (カカエー)
隠れる	3c	3c (カクレー)
支える	3a	3a (ササエー)

	S	T
捧げる	3a,0a	3a (ササゲー)
捕える	3a	3a (トラエー)
○III・IV－その他		
知らせる	0a	0a (シラシェー)
潰れる	0c	0c (ツブレー)
育てる	3a	3a (ソダテー)
揃える	3a	3a (ソロエー)
眺める	3a	3a (ナガメー)
○IV－その他		
頂く	0a	0a
疑う	0a	0a (ウタガー)
転がす	0a	0a
始まる	0c	0c (ハジマー)
働く	0a	0a
集まる	3c	3c (アツマー)
謝まる	3a	3a (アヤマー)
動かす	3a	3a (エゴカス)
驚く	3a	(希)3a (オビエー0c)
苦しむ	3a	3a (クルシン)
断る	3a	3a (コトワー)
耕す	3a	3a
喜ぶ	3a	3a
◎形容詞		
○II		
無い	1	1
良い	1	1
○II－その他		
濃い	1 (コユイ2とも)	(コイー2)
酔い(ス)	(スイー2)	(スイー2)
○III－1類		
赤い	0a	0a
浅い	0a	0a
厚い	0a	0a
甘い	0a	0a
荒い	0a	0a
薄い	0a	0a
遅い	0a	0a
重い	0a	0a

	S	T
堅い	0a	0a
軽い	0a	0a
暗い	0a	0a
辛い(ツラ)	0a	2
遠い	0a,0b	0a
○III－2類		
惜しい	2	2
欲しい	2	2
青い	2	2
熱い	2	2
淡い	2	2
痛い	2	2
旨い(ウマ)	2	2
多い	2,2b	2
痒い(カユ)	2	2(カイー)
辛い(カラ)	2	2
清い	2	2
臭い	2	2
黒い	2	2
強い(コワ)	2	2
寒い	2	2
渋い	2	2
白い	2	2
凄い(スゴ)	2	2
狭い	2	2
高い	2	2
近い	2	2
強い(ツヨ)	2	2
長い	2	2

	S	T
苦い(ニガ)	2	2
鈍い	2	2
早い	2	2
低い	2	2
広い	2	2
深い	2	2
太い	2	2
古い	2	2
細い(ホソ)	2	2
脆い(モロ)	2	2
易い(ヤス)	2	2
緩い(ユル)	2	2
若い	2	2
悪い	2	2
○III－その他		
丸い	0a	0a
暑い	2	2
偉い	2	2
怖い(コワ)	2	2
安い	2	2
弱い	2	2
○IV－1類		
怪しい	0a,3a	0a
卑しい	3a	3a
悲しい	0a,3a	0a
空しい(ムナ)	3a	3a
やさしい	0a,3a	0a
宣しい(ヨロ)	3a	3a

	S	T
○IV－2類		
嬉しい	3a	3a
厳しい	3a	3a
悔しい	3a	3a
苦しい	3a	3a
詳しい	3a	3a
恋しい	3b	3b
淋しい	3a	3a
親しい	3a	3a
涼しい	3a	3a
正しい	3a	3a
楽しい	3a	3a
乏しい	3a	3a
激しい	3a	3a
久しい	3a	3a
等しい	3a	3a
○IV－その他		
明るい	0a,3a	0a
危ない	0c,3c	0c
冷たい	0a,3a	0a
大きい	3b,0b	3b
おかしい	3a	3a
かわいい	3a	3a
細かい	3a	3a
少ない	3c	3c
小さい	3b	3b
短い	3c	3c
めでたい	3a	3a

表 7

○III	S	片手	2	獣(ケモノ)	0a	刺身	3a
相手	3b	ガラス	2,1	喧嘩(ケンカ)	0b	雑誌	0c
家鴨(アヒル)	0a	体	0a	黄金(コガネ)	0a	砂糖	2
雨戸	2	カルタ	1	乞食(コジキ)	0a	仕事	0a
鮃(イビキ)	3a	瓦(カワラ)	0a	小僧	2	芝居	0a
伊呂波	2	機械	2	炬燵(コタツ)	0a	醤油	3b
うどん	0a	煙管(キセル)	0a	小猫	2	西瓜(スイカ)	0b
絵本	2	切手	0c	小判	1	草履(ゾーリ)	0b
案山子(カカシ)	0a	切符	0c	御飯	1	太鼓	0b
踵(カカト)	0a	茸(キノコ)	1	小麦	0a	タバコ	0a
垣根	2,3c	去年	1,0a	小指	0a	箪笥(タンス)	0b
絣(カスリ)	0a	くしゃみ	3a	座敷	3c	茶碗	0a

躑躅(ツツジ)	2	りんご	0b	金持	0a,3a	筍(タケノコ)	0a
蕾(ツボミ)	0a			剃刀(カミソリ)	3c	七夕(タナバタ)	4a
手紙	0a	○IV		雷	0c,3c	谷川	0c
手本	2	青空	0a,4a	髪の毛	3c,4c	魂	1
電気	1	赤貝	0a	唐傘	0a	たんぽぽ	1
電話	0b	商い	3c,2	北風	0a	蝶々	1
道具	3b	朝顔	2	絹糸	0a	塵取り	0c
豆腐	3b	あさって	2	兄弟	1	一日(ツイタチ)	0b,4b
時計	0a	足跡	3c	草花	2	釣合い	0c
戸棚	0a	足音	3c,4c	果物(クダモノ)	2	手拭	0a
土瓶(ドビン)	0a	足踏	0a,3a	嘴(クチバシ)	0c	天井	0b
鳥居	0a	足元	4c	唇	0a	動物	0b
鳶(トンビ)	1	畦道(アゼミチ)	3a,2	口笛	0a	年寄	4c
蜻蛉(トンボ)	0b	後足(アトアシ)	4a	下駄箱	0a	友達	0a
荷物	1	案内	3b	血圧	0c	鳥籠	0c
野菊	2	生垣(イケガキ)	0a	公園	0b	泥水	3a
野原	1	石垣	0c	笄(コーガイ)	0b	中指	3a
羽織(ハオリ)	0a	井戸端	4a,0a	蝙蝠(コーモリ)	1	仲好し	2,3a
葉書	0a	糸巻	3a	蟋蟀(コーロギ)	1	長刀(ナギナタ)	0c
秤(ハカリ)	3a	妹	4a	小刀(コガタナ)	0a	菜の花	1
バケツ	0a	色紙	3a	黒板	0c	兄さん	1
鼻緒	0a	鶯	2	御馳走	0c	荷車	2
話	3a	渦巻	3c	諺	0a	西風	0c
バナナ	1	梅干	0a	小鼠	2	鶏	0a
花火	2,1	絵葉書	2	呉服屋	4c	人形	0b
花見	3a	縁側	4b	盃	0a	人参	0b
火鉢	0a,1	豌豆(エンドウ)	1	魚屋	0a	姉さん(ネーサン)	1
平目	0a	鉛筆	0b	侍	0c	鋸(ノコギリ)	3a
昼間	0c	大雨	3b	幸せ	0a	乗物	0c
葡萄(ブドー)	0a	狼	1	椎茸	0b	肺炎	0b
蒲団(フトン)	0a	大麦	3b	自動車	2	羽子板	0a
帽子	0b	弟	4a	尺八	0c	箱庭	0a
前歯	3a	おとい	0a	商売	1	鉢巻	3c
鮪(マグロ)	0c	思い出	0a	信号	0b	花束	3a,4a
睫(マツゲ)	1	親犬	3a	心配	0b	花弁(ハナビラ)	2
みかん	1	親指	0a	正解	0b	蛤	2
岬	0a	貝殻	4b	瀬戸物	0a	歯磨き	2
眼鏡(メガネ)	0a,1	階段	0b	先生	3b	針金	0c
八百屋	0a	篝火(カガリビ)	3a,0a	戦争	0b	春風	3c,2
ヤカン	0a	柿の木	4c	洗濯(センタク)	0b	反省	0b
役場	3c	額縁	0a	空豆(ソラマメ)	0a	飛行機	2
野菜	0a	肩掛	4a	算盤(ソロバン)	0a	菱餅	3c
屋敷	3c	肩幅	4a	大根	0b	病院	0b
浴衣(ユカタ)	3a	学校	0c	太陽	1	懐(フトコロ)	0a
夜中	3a	門松	0a	竹馬	0a	故郷(フルサト)	1

風呂桶	4a
風呂敷	4a
方言	3b
包丁	0b
待針	3c
松虫	2
俎(マナイタ)	0a
三日月	0a
湖	3a
水鳥	0c
味噌汁	3a
皆さん	2
紫	2
目的	0c
物差し	3a
紋付き	4b
約束	0c
山鳥	2
夕方	0b
夕立	0b
夕焼	0b
四つ角	0c
蠟燭(ローソク)	0b
綿入れ	4a
○V	
あいうえお	3a
間柄	0b
青畳	0a
赤茶色	0a
赤とんぼ	1,3a
明盲(アキメクラ)	0c,3c
朝寝坊	3a
味加減	0c
当り前	0a
暴れ者	0a
脂汗	4c,5c
油蟬	3c
雨宿り	3a
荒物屋	0a
有難味	0c
アルコール	0c
言い掛り	0b
言い伝え	0b

家屋敷	3a
石畳	0c,3c
田舎者	0a
稲光	0a
祝い事	4a,5a
植木鉢	4a,3a
後影	4c
後前(ウシロマエ)	3c
薄化粧	3c
有頂天	2
生まれつき	0a
海坊主	3c
嬉し泣き	0a
売れ残り	0a
上の空	4a
運転士	3b
絵巻物	3a
応接間	5b
大昔	3b,4b
置土産	3a
幼な顔	4a
鬼瓦	3c
お婆さん	2
朧月	3a
親心	3a
外国語	5b
影法師	3a
化合物	2
飾り窓	4a
火山灰	2
柏餅	3c
片田舎	3a
蝸牛(カタツムリ)	3a
金物屋	5a
甲虫(カブトムシ)	3c
看護人	0b
貴金属	2
木賃宿	2
黍団子	3c
銀世界	3b
九谷焼	0a
化粧品	0a
顕微鏡	0b
古戦場	0a

子供服	3a
小間物屋	5a
五里霧中	1
指物屋	5c
仕立物	0a
市町村	2
資本金	0a
霜柱	3a
所有物	2
深呼吸	3b
新聞紙	3b
台所	1,0b
高島田	3a
宝船	4a
玉の汗	4a,5a
地平線	0a
停留所	5b
トタン屋根	4a
隣村	0a
七不思議	4a
俄か雨	4a
鼠色	5a
年賀状	0b
化の皮	5a
話し声	4a
針仕事	4a,3a
ひき蛙	3c
独り者	0a
非売品	0a
拾い物	0a
不案内	2
不経済	2
不賛成	2
無精者	5a
不動産	2
帆掛船	4a
ほととぎす	3a
彫物師	4c
松林	3c
右左	2
身拵え	2
水薬	3a
見ずしらず	1
水溜り	0c

耳障り	3c
土産物	0a
麦畑	(希)4c(3a)
無条件	2
目分量	2
メリケン粉	5c
破れ傘	5c
夜明前	4a
羅針盤	0a
分けへだて	2,0a,5a
笑い声	4a,5a
○VI	
上がり下がり	2
朝飯前	5a
誂え向き	0c
合せ羽織	4a
安全灯	0b
石灯籠	3c
田舎娘	4a
慰問袋	4a
氏神様	0c
後姿	5c,4c
内弁慶	3c
お稲荷さん	1
臆病者	6c
お天子さん	2
金切声	5a
考え物	6b
絹織物	3c
心当り	4a
決勝戦	3c
さや豌豆	3a
幸せ者	0a
つるべ落し	4c
飲友達	3c
働きかけ	0a
反対側	0b
堀抜井戸	6a
水商売	3c
水疱瘡	3c
水羊羹	3c
紫色	6a
焼蛤	4c

〔付記〕　この調査に当たっては，馬場嘉利氏・京子氏の並々ならぬ御協力を頂いた。ここに記して心からの御礼を申し上げる。また，松江での調査には日本学士院から受けた研究費の一部を当てたことも明記しておく。